

——— 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。 ———

効能・効果の追加のお知らせ

指定医薬品

EPA製剤

エパフィール[®]カプセル300

このたび平成 17 年 8 月 25 日付にてE P A製剤**エパフィールカプセル300**につきまして、**効能・効果**の追加の一変承認を得ましたので、お知らせ申し上げます。また、「高脂血症」の効能追加に伴い、使用上の注意を改訂致しましたので、併せてお知らせ申し上げます。

平成 17 年 9 月



扶桑薬品工業株式会社

大阪市城東区森之宮二丁目 3 番11号

記

エパフィールカプセル300（イコサペント酸エチル）

1. 効能・効果の追加に基づく改訂箇所（____部追加改訂箇所）

改訂後	改訂前
【効能・効果】 ◇閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛および冷感の改善 <u>◇高脂血症</u>	【効能・効果】 閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛および冷感の改善
【用法・用量】 ・閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛および冷感の改善 イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mg（2カプセル）を1日3回、毎食直後に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 ・高脂血症 <u>イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mg（2カプセル）を1日3回、毎食直後に経口投与する。</u> <u>ただし、トリグリセリドの異常を呈する場合には、その程度により、1回900mg（3カプセル）、1日3回まで増量できる。</u>	【用法・用量】 イコサペント酸エチルとして、通常、成人1回600mg（2カプセル）を1日3回、毎食直後に経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。

2. 「高脂血症」の効能追加に伴う使用上の注意改訂箇所（_____部追加改訂箇所）

改訂後	改訂前
【使用上の注意】 2. 重要な基本的注意 (1) <u>本剤を閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛および冷感の改善に用いる場合、治療にあたっては経過を十分に観察し、本剤で効果がみられない場合には、投与を中止し、他の療法に切り替えること。また、本剤投与中は定期的に血液検査を行うことが望ましい。</u> (2) <u>本剤を高脂血症に用いる場合には、次の点に十分留意すること。</u> 1) <u>適用の前に十分な検査を実施し、高脂血症であることを確認した上で本剤の適用を考慮すること。</u> 2) <u>あらかじめ高脂血症治療の基本である食事療法を行い、更に運動療法や高血圧・喫煙等の虚血性心疾患のリスクファクターの軽減等も十分に考慮すること。</u> 3) <u>投与中は血中脂質値を定期的に検査し、治療に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。</u>	【使用上の注意】 2. 重要な基本的注意 治療にあたっては経過を十分に観察し、本剤で効果がみられない場合には、投与を中止し、他の療法に切り替えること。また、本剤投与中は定期的に血液検査を行うことが望ましい。

☆改訂後の【使用上の注意】の全文を次頁に掲載しました。

添付文書情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ (URL: <http://www.info.pmda.go.jp>)」においてもご確認できます。（掲載まで最大3週間かかる場合があります。）

エパフィールカプセル300の「禁忌」及び「使用上の注意」（改訂後）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

出血している患者（血友病、毛細血管脆弱症、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、硝子体出血等）〔止血が困難となるおそれがある。〕

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 月経期間中の患者
- (2) 出血傾向のある患者
- (3) 手術を予定している患者
- 〔(1)～(3)出血を助長するおそれがある。〕
- (4) 抗凝血剤あるいは血小板凝集を抑制する薬剤を投与中の患者（「相互作用」の項参照）

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤を閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍、疼痛および冷感の改善に用いる場合、治療にあたっては経過を十分に観察し、本剤で効果がみられない場合には、投与を中止し、他の療法に切り替えること。また、本剤投与中は定期的に血液検査を行うことが望ましい。
- (2) 本剤を高脂血症に用いる場合には、次の点に十分留意すること。
 - 1) 適用の前に十分な検査を実施し、高脂血症であることを確認した上で本剤の適用を考慮すること。
 - 2) あらかじめ高脂血症治療の基本である食事療法を行い、更に運動療法や高血圧・喫煙等の虚血性心疾患のリスクファクターの軽減等も十分に考慮すること。
 - 3) 投与中は血中脂質値を定期的に検査し、治療に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝血剤 ワルファリン等 血小板凝集を抑制する薬剤 アスピリン インドメタシン 塩酸チクロピジン シロスタゾール等	出血傾向をきたすおそれがある。	イコサペント酸エチルは抗血小板作用を有するので、抗凝血剤、血小板凝集を抑制する薬剤との併用により相加的に出血傾向が増大すると考えられる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、そう痒感等
出血傾向 ^{注2)}	皮下出血、血尿、歯肉出血、眼底出血、鼻出血等
血液	貧血等

消化器	悪心、胃部不快感、下痢、嘔吐、食欲不振、便秘、口内炎等
肝臓 ^{注2)}	AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-P・γ-GTPの上昇等の肝機能障害、黄疸
腎臓	BUN・クレアチニンの上昇
その他	CK(CPK)の上昇、頭痛・頭重感、めまい、ふらつき、眠気、不眠、顔面潮紅、ほてり、発熱、動悸、浮腫、しびれ、関節痛、頻尿、尿酸上昇、全身倦怠感、女性化乳房

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕
- (2) 授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。〔動物実験（ラット）で乳汁中に移行することが報告されている。〕

6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない（使用経験がない）。

7. 適用上の注意

(1) 服用時：

- 1) 本剤は空腹時に投与すると吸収が悪くなるので食直後に服用させること。
- 2) 本剤は噛まずに服用させること。

(2) 薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、さらには穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

8. その他の注意

コントロール不良の高血圧症を有し、他の抗血小板剤を併用した症例において、脳出血があらわれたとの報告がある。

2005年8月改訂（アンダーラインは追加・変更箇所）